

ソーシャル・インパクト・ボンドの仕組みと役割 ー社会改善プログラムの新資金調達手法ー

森利博（立命館大学）

ソーシャル・インパクト・ボンド（Social Impact Bond、以下 SIB）とは、我々の生活する社会を改善するためのプログラムを実施するための資金調達の新技术である。例えば、犯罪件数や失業者を減少させるために社会的弱者に対して職業訓練などの就職支援プログラムを行う場合に必要な資金を SIB によって調達する。それは財政赤字に悩み歳出カットを迫られる行政府が民間の投資資金を行政サービスに導入する新技术である。このような官民パートナーシップと呼ばれるものは従来から存在し、PFI がその代表例であるが、SIB では投資対象がハコモノではなく人的資源であることに加えて、Payment by Results（以下 PbR）と呼ばれる成果主義が導入されている点で PFI と異なる。つまり従来から行政サービスを民間の業者に委託することはあったが、その報酬は実施されたサービスに基づいて支払われていた。しかし PbR においては、サービスを実施した結果として目標とする定量的成果（例えば犯罪件数や失業者の減少）が実現できたか否かによって支払いの有無が決定される。支払われる場合の原資として、成果が達成されたことによってもたらされた歳出の削減（例えば刑務所関連コストや失業手当支給額の削減）が充てられる。しかし成果が達成されなかった場合には投資家には支払いはない。PbR によって行政サービスの効果に関わるリスクが行政府から投資家に移転される、行政府と納税者は結果的に効果のない行政サービスに投資することによって生じる税金の無駄遣いから開放される。

世界最初の SIB は 2010 年に英国で刑務所の出所者を対象とした社会復帰支援プログラムの資金を調達するために発行された。その後世界各国で相次いで導入、または導入が検討されており、2013 年末時点で、英国で 14 件、米国で 5 件、オーストラリアで 2 件、オランダで 1 件、ベルギーで 1 件の導入が報告されており、調達された資金は 1 億ドルを超える。さらに 100 件を超える SIB 導入計画が検討されており、そのなかには我が国をはじめ、カナダ、ドイツ、ベルギー、ニュージーランド、イスラエル、南アフリカ、韓国、モザンビークなどの諸国が含まれる。

SIB は財政状態の悪化によって資金不足に悩む行政府と、経済的利益を求めるとともに社会改善を志向する投資家（「社会的投資家」と呼ばれる）のニーズを結びつけたものであり、今後更に SIB への関心も高まることが予想される。しかし、他方で既に SIB 導入に対する慎重論も表明されている。例えば、PbR が行政サービスの世界に導入されれば、現場では目標を達成し報酬の支払いを得ることが最優先され、個々のサービス受給者のニーズに即した木目細かい対応が忘れ去られる可能性が指摘されている。この問題を回避するには、支払いの基準となる目標値の選択、設定レベル、設定方法などを慎重に検討する必要がある。以上